

ビデオ会議における誤情報発信時の発話プロトコルの傾向分析

Analysis by Using Verbal Protocol of the Misinformation in a Video Meeting

1741115 丸 幸生

Kouki MARU

指導教員 秋葉 知昭

In this study, I analyzed a trend for the misinformation in video meeting as verbal protocol from speeches. As a result, I found that a misinformation speaker mutters to dissemble important speaker without careless remark.

1. 緒言

近年,特殊詐欺の被害件数は依然として高く,振り込め詐欺などの特殊詐欺の手口は年々巧妙となり現金を狙う犯罪者集団は水面下で力を蓄え昨今では,新型コロナウイルスの影響により緊急経済対策である特別給付金を狙った特殊詐欺まで起こってしまう現状である[1].こうした詐欺の背景には,被害者の詐欺への情報不足が挙げられる.新たな詐欺が次々と生まれてしまっている現状では手遅れの場合が多い.詐欺は基本的に誤情報を流して人を騙すことであり,そこで全ての詐欺に共通する誤情報を流す際の傾向を発見することができれば被害を減らせるのではないかと考えた.

本研究では,発話プロトコルに注目し,誤情報を見抜く方法や傾向を Zoom というビデオ会議のアプリケーションを用いて調査する.ZoomとはZoomビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービスの名称である[2].そこで誤情報を含んでいる人狼ゲームを通して,どのように誤情報が拡散されていくのか,またその影響を調査する.また誤情報を拡散する際の発話にどのような特徴と関連性が見られるか分析し調査する.

2. 発話プロトコルとワンナイト人狼

2.1 発話プロトコル[3]

発話プロトコルとは対話の出来事,その対話の記録である.プロトコルは2つの意味に分かれ1つは行為的意味である.これは発話の相互行為のさなかに作られる.もう1つは言説的意味でありプロトコルの中に含まれる他者の言葉である.この発話プロトコルを分析することで,誤情報発信時の傾向を発見ができるのではないかと考えた.

2.2 ワンナイト人狼[4]

ワンナイト人狼は,人狼ゲームをより少ない人数で,より短い時間で気軽に遊べるように開発されたゲームである.各プレイヤーが指定された役職を演じ,人間陣営と人狼陣営に分かれ,それぞれ得られる情報を出し合い,時には騙し合いながら決められ

た時間内で議論する.人狼役を探し出すことができれば人間陣営の勝利となる.

3. 実験方法

本研究ではビデオ会議を利用した会話を対象とした.本来であれば対面式の人狼ゲームを予定したが,新型コロナウイルスの影響によりビデオ会議で妥協せざるを得ない状況であった.

実験では録画をするために必要なアプリケーションとして Zoom を利用し,被験者として千葉工業大学の学生,延べ 10 名に依頼した.どのような狙いで何をやってもらうか概要的な説明と,実験からプロトコルを収集して傾向を取る目的を伝え,その説明で理解を得てから,ビデオ会議を用いて予備実験を数回行いゲームが破綻していないか,役職に偏りはなにか,議論の時間の調整,録画は上手く撮れているか,といった点を確認した後に 5 回ワンナイト人狼を試行した.

4. 結果と考察

5 回の本実験の結果,人間陣営が 1 回,人狼陣営が 4 回勝利となった.各ゲームの映像データとして採取し発話プロトコルを書き出し,各役職の発話の傾向を分析した.

実験で得られた発話データの中から,よく見られた内容の発話を 8 カテゴリに分けた.各カテゴリの発話がどの程度見られたかを抽出し,役職と毎にまとめた.カテゴリは①思考②同意③否定④疑い⑤驚き⑥主張⑦便乗⑧笑いとした.このカテゴリ毎に分けられた分類の発話の関係性を階層クラスター分析し,デンドログラムで表した.分析した傾向を以下の図 4-1 から図 4-3 に示す. 線で繋がれたカテゴリはクラスタ(まとまり)を示し,X 軸の数値は関係性の距離を示しており,この距離が短ければカテゴリ間に強い関わりがあることを示す.

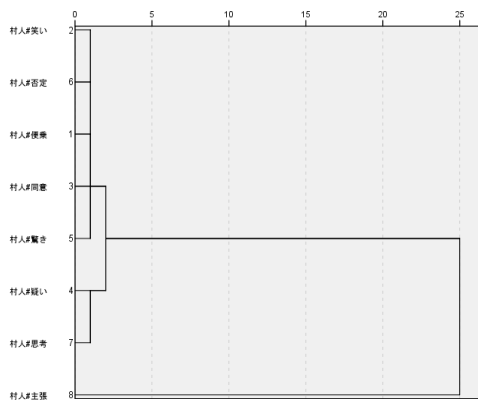


図 4-1 村人の発話傾向

村人役は図 4-1 を見ると、「主張」を除く全てのカテゴリが比較的近い距離でカテゴリがまとまっている為、発話に偏りがなく様々な発言したことがわかる。

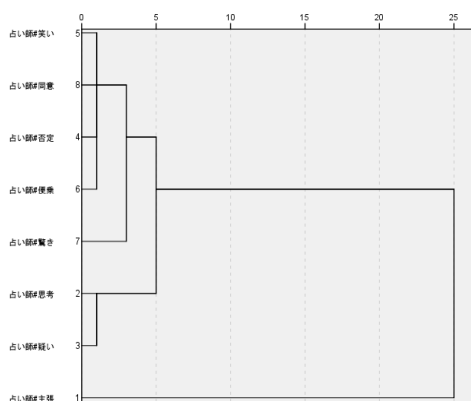


図 4-2 占い師の発話傾向

占い師役は「疑い」と「思考」のカテゴリに独立性が見られ占い結果から間違った意見には疑いを掛け人狼役を見つけ出していく傾向が見られる。

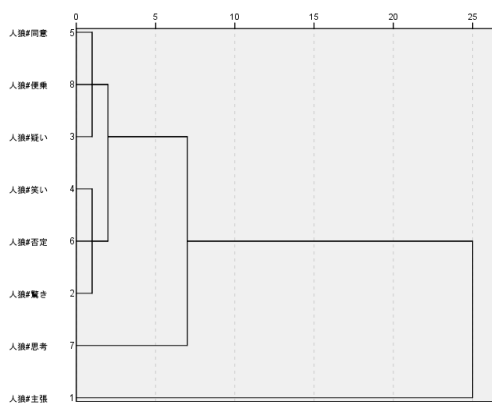


図 4-3 人狼役の発話傾向

人狼役は占い師役と似た傾向があり「否定」「笑い」「驚き」の3カテゴリ間の距離が近いことから占い師役として議論を荒らす動きがあったと考えられる。

ビデオ会議のみで見られる傾向として、タイムラグがあり、2人の発言が被ることがあった。2人同時に聞き取るのは難しいため、先にどちらか一方が発言する事となる。その際、人間陣営が先に発言することが多かった。これは人狼役が誤情報を発信する際に人間陣営の話聞いて矛盾している点や破綻していないか確認できるため、少しでもリスクを減らしているのではないかと考えられる。従来の研究である対面式、チャット式と比較して図 4-1 から図 4-3 までの発話傾向はかなり似た結果になり、より整合性の高い結果となった。

5. 結言

本研究では、「誤情報発信者」である人狼役に見られる傾向を発見することができた。人狼役は占い師を騙る場合が多く、占い師役として議論を荒らしていく傾向が見られた。またビデオ会議でタイムラグにより2人以上の発言が被った場合に後から発言をする人物が人狼役である可能性が高いことがわかった。ここから誤情報発信者は重要な情報を持つ人物に成りすます傾向があり、ビデオ会議上でタイムラグにより発言が2人以上同時に被り後から発言する人物は誤情報発信者ある可能性が高いと考える。本研究を行った背景に緒言で挙げたような様々な特殊詐欺の問題の解決にこのような研究が盛んになり現代社会の人々の補助になれば良いと考える。

謝 辞

最後に、被験者になった各位に感謝します。

文 献

- [1] 毎日新聞：警視庁 特殊詐欺の認知件数と被害額の推移
<https://mainichi.jp/articles/20200220/k00/00m/040/213000>
c (2019 時点)
- [2] Wikipedia フリー百科事典：Zoom
[https://ja.wikipedia.org/wiki/Zoom_\(%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%AA%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/Zoom_(%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%AA%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3)) (2020 時点)
- [3] 海保博之,原田悦子：プロトコル分析入門 発話データから何を読むか,新曜社 (1993)
- [4] 秋山洋介：誤情報発信時に見られる発話プロトコルの傾向分析 千葉工業大学卒業論文(2016)